

Nov. 2013  
Vol.289

111

自治体国際化  
CLAIR FORUM  
フォーラム



バルビゾン&朝来交流現代美術シンポジウム

特集

## 分野を特化した国際交流

International Exchange in Specialised Areas



財団法人自治体国際化協会

CLAIRとは、Council of Local Authorities for International Relationsの略称です。



## 2-5 防災教育でベトナム・フエ市と“心の交流”

プロジェクトコーディネーター（愛媛県西条市） 中村 範子

西条市は、愛媛県東部に位置し、南には西日本最高峰の石鎚山、北には瀬戸内海と、海と山と平野がそろった自然あふれるところである。

しかし、その自然は時として人間に襲いかかる。2004年、西条市を直撃した台風21号による洪水及び土石流は、死者5人を出す記録的な被害をもたらした。このような教訓を踏まえ、市では災害に強いまちづくりに取り組んでいる。

その中の一つに、2006年度から実施している「12歳教育推進事業(※)」がある。この事業は、小学校の集大成として、防災を切り口に、広く社会に目を向けさせ、各種体験活動を通して防災に関する知識・技能、より確かな社会性を身につけさせることを目的とする。また、毎年、市内全小学校の代表児童が集まる「子ども防災サミット」を開催し、各種体験活動の紹介や意見交換を行うことにより、将来の西条市を担うリーダーの育成を目指している。

この取り組みは、2010年に国連国際防災戦略（UNISDR）の事例集「地方自治体と災害リスクの軽減」に掲載されたことがきっかけとなり、国内だけでなく海外からも注目されるようになった。

### フエ市との出会い

「災害に強いまちづくり」を目指し、西条市は、京都大学大学院地球環境学堂から指導を受けてきた。また、ベトナム・フエ市も頻繁に起こる洪水による被害に対し、同大学院と共同で防災研究に取り組んできた。

京都大学とのつながりを通して、2005年にフエ市が西条市を訪問したことを契機に、フエ市との交流が始まった。

フエ市は、地理的に大雨が多く、毎年のように発生する風水害に悩まされており、特に1999年の大規模な洪水では多くの命が失われ、経済的にも大きな被害を受けた。ベトナム政府は、国際援助も含む大規模なインフラ整備や各種の政策・制度



による災害対策に加え、最近では「教育及び訓練」による対策も重視し始めている。また、西条市とフエ市は、地形や生業、地域のコミュニティについても似ていることから、西条市が築き上げてきた防災教育の経験をフエ市に生かすことができると考え、2011年度からJICAの草の根技術協力の一環として、「フエ市における防災教育プログラムの開発と実践事業」を展開している。

この事業は、西条市の「12歳教育」の手法を紹介し、フエ市の現状に合った防災教育プログラムの開発・実践を支援するものである。主な活動として、防災に関するそれぞれの経験の共有や意見の交換を目的とした双方の教員及び行政職員の研修や視察を実施している。

また、事業の中で、防災教育プログラムを展開する現地のモデル校にて、西条市の教員や消防団員、自主防災組織メンバーなどの専門家の指導のもと、防災タウンウォッチングや土のう作り、救



モデル校での防災学習



命講習など防災に関する体験学習などさまざまな活動を実施している。

フエ市は、洪水による子どもの水難事故も少ない。その原因の一つとして、学校教育の中で水泳を学習する機会がなく、水に対する危機意識が低いことが考えられる。

このような背景を受け、モデル校において水泳教室を実施している。この教室では、「防災」の視点から、緊急時に役立つ水泳技術や応急処置法を伝える活動などを行っている。この活動が、フエ市人民委員会において高く評価され、2012年度から西条市の手法を参考にしたフエ市による水泳教室プロジェクトが展開されている。現在は、フエ市内の小学生を対象としているが、今後はさらに対象を拡大していく意向である。このように、西条市の取り組みが現地にさらに広がっていくことを期待している。



水泳教室で人工呼吸法を学ぶ子どもたち

## フエ市子ども防災サミットの開催

事業最終年度となった今年2013年8月6日に、事業活動の成果発表の場として、フエ市において「子ども防災サミット」を開催した。このサミットは、本事業を通して、現地のモデル校の子どもたちが体験・実践してきたさまざまな防災学習活動の成果をほかの学校や地域へ共有することを目的とし開催された。サミットには、フエ市・西条市の関係職員、モデル校の教職員及び生徒約300人をはじめ、JICAベトナム事務所の清水次長、フエ農林大学職員、フエ市内の小中学校の教職員、現地メディアなど、約650人が参加した。



「フエ市子ども防災サミット」での成果発表劇「台風が来た！」

サミットでは、各モデル校から10グループの子どもたちが、事業を通して実践してきた防災タウンウォッチングや水泳教室の活動、プロジェクトを通して学んできた台風や洪水などの自然災害について劇やパワーポイントを使って発表し、防災において重要なことを大勢の聴衆に伝えた。

防災教育プログラムには、教職員・生徒ともに熱心に取り組んできた。子どもたち自身で調査に出掛けたり、アイデアを出したりしながらサミットの準備をしてきた。モデル校の教職員も、防災教育を通して子どもたちは「まずは自分の命、そして周りの命を守ることを考える力」が身に付いたと評価した。

また、今年の日越友好40周年に当たり、このサミットを日越40周年記念事業に登録することで、さらなる日越の友好発展に貢献することを期待している。

国際交流は「人と人とのつながり」であり、フエ市と西条市との関係は少しずつ築き上げられてきたものである。双方の人と人との交わりの積み重ねにより、フエ市から「西条市とは“心と心”で付き合える」との温かい言葉をいただいた。本事業は、本年度で終了予定であるが、これからがフエ市との本当の付き合いの始まりだと感じている。事業終了後もこれまで築いてきたフエ市と西条市とのつながりを大切にし、防災分野だけでなく幅広い協力・交流を継続していきたいと考えている。

(※) 中学校入学を控えた12歳(小学6年生)は、大人への仲間入りとなる区切りの年齢であり、かつ小学校最上級生としての責任感と判断力を持つことから、この年齢層を対象としている。